

## 令和3年度の学校評価結果

本年度の重点目標 (課題)	1 学習指導・進路指導の充実により、より高いレベルでの進路実現を目指す。 2 学習との両立を目指し、運動部も文化部も積極的に部活動に取り組む。 3 生徒が自主的、主体的に学校祭などの学校行事に取り組む。 4 姉妹校との国際交流など、国際理解教育に積極的に取り組む。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務 (総務部)	・防災体制の整備	・防災委員会の活動を全校に向けて発信する。	・防災委員の活動は充実したものであった。防災訓練においては全校生徒が目に見える活動を行うことができ、随分中身のあるものとなった。防災講話では運営や進行に携わった。
	・PTAと学校の相互理解	・PTAが学校活動に参加する機会を確保する。	・今年度もコロナ禍でPTA行事の多くが中止、実施変更を余儀なくされた。その中でPTA懇談会、PTA大学見学研修会、交通安全全校指導などを実施し、PTA活動の立案・運営に創意工夫をしながら取り組んでいただけた。
学習指導 (教務部)	・学力向上を図る	・学習意欲を高めるような授業に心がける。 ・家庭での学習習慣を身につけさせる。	・評価内容について3観点に着目し、改めて評価基準の洗い出しを行った。 ・休校中の課題や動画配信、ロイロノートの活用など様々な方法で学習活動が行える基盤づくりができた。
	・基礎・基本を定着させ、発展的な学習に取り組ませる。	・補助教材プリントやテスト等の活用で、基礎学力の定着を図った。スタディサプリを利用しながら、自主的な学習活動を行えるようにした。また、発展的な学習に取り組むことにより、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力の育成にも効果があった。	・補助教材プリントやテスト等の活用で、基礎学力の定着を図った。スタディサプリを利用しながら、自主的な学習活動を行えるようにした。また、発展的な学習に取り組むことにより、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力の育成にも効果があった。
	・授業規律の徹底を図る	・授業を大切にさせる。 ・学習環境を整える。	・生徒指導連絡票での段階的、組織的な指導を行うとともに教科担当や担任との連携を図り個別に指導を行った。 ・学級担任や学年会など学校全体の取り組みで、落ち着いた環境で授業を行うことができた。
	・授業規律の徹底を図る	・授業を大切にさせる。 ・学習環境を整える。	・生徒指導連絡票での段階的、組織的な指導を行うとともに教科担当や担任との連携を図り個別に指導を行った。 ・学級担任や学年会など学校全体の取り組みで、落ち着いた環境で授業を行うことができた。
生徒指導 (生徒指導部)	・規律正しい生活習慣の確立	・遅刻者を減少させる。 ・身だしなみを向上させる。	・2学期から特に急増した。遅刻が増えかける、もしくはそれ以前に、きめ細やかな指導をしていく必要がある。 ・年度当初から年度末、入学年次から3年生にわたる持続的な指導と、一部の教員だけでなく、全教員で指導にあたる体制を整える必要がある。
	・通学マナーの向上を図る。	・通学マナーの向上を図る。	・自転車の並進や道いっぱい広がっての徒歩などはまだ見受けられる。交通ルールを守らせるだけでなく、マナーも向上させる指導も強化していきたい。
	・いじめの早期発見	・いじめアンケートを有効活用する。	・アンケート実施により、いくつかの事案が発見された。学年会で積極的な情報共有につながった。 ・アンケートに答えていない生徒からも、いくつかの事案が発見された。アンケート方法についてさらなる検討が必要である。
	・いじめの早期発見	・いじめアンケートを有効活用する。	・アンケート実施により、いくつかの事案が発見された。学年会で積極的な情報共有につながった。 ・アンケートに答えていない生徒からも、いくつかの事案が発見された。アンケート方法についてさらなる検討が必要である。
生徒会 (生徒会部)	・生徒会活動の充実	・議会、各委員会を活性化し、生徒の生徒会への参加意識を高める。	・生徒議会がクラスへの情報伝達機関となっている。意見箱の設置や意見交換会を行っているが、他校の取り組みを参考に、生徒が能動的に学校行事の運営に参加するような体制づくりに努める必要がある。
	・学校祭などの行事を生徒が中心となって実施する。	・学校祭などの行事を生徒が中心となって実施する。	・体育祭を愛知県体育館で実施した。感染症対策、熱中症対策等に関しメリットが大きいと感じたので、次年度も継続して実施する。 ・文化祭は密を避ける対策を徹底して実施した。次年度も生徒の安全を第一に考え、実施計画を慎重に検討する。 ・球技大会も含め、生徒にも安全な行事の実施に向けてどのような対策が必要か考えさせることが必要である。
	・部活動の活性化を進める。	・部活動の活性化を進める。	・部勧誘を中止し、新入生オリエンテーションにおいて部活動紹介動画を鑑賞させ、各部の説明を聞くブースを設けた。新入生の興味関心を高める方法を今後も検討する。 ・感染症対策として、部室の消毒や短時間の更衣などの対策を一層徹底するよう促した。次年度も継続して指導する。 ・PTAの支援をいただき、必要な備品の購入を進めた。次年度も継続して実施する。
	・ボランティア活動への参加を進める。	・ボランティア活動への参加を進める。	・エコキャップの回収を行った。また、あいさつ運動及び赤い羽根共同募金活動を実施した。いずれも生徒への積極的な参加を促す方策の検討が必要である。
進路指導 (進路指導部)	・より高いレベルの進路目標実現にむけて早期の進路目標設定と学力の向上	・進路指導体制を充実させる。	・3年の進路検討会は、生徒の個別検討については充実してきた。1・2年の進路検討会については実現できていない。今後は学年会で情報交換の機会を作っていきたい。
	・より高いレベルの進路目標実現にむけて早期の進路目標設定と学力の向上	・キャリア教育を推進する。	・コロナ禍でインターンシップは、ほぼすべてが中止となった。今後は看護・幼稚園以外の職種への広がりが求められる。また「総合」の時間でのキャリア教育の充実も引き続き検討課題である。
	・より高いレベルの進路目標実現にむけて早期の進路目標設定と学力の向上	・補習、模擬試験を充実させる。	・コロナ禍で3年生の模擬試験がすべて校内実施となった。また1、2年生とともに実施された模擬試験はほぼ全ての生徒が参加した。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
保健 (保健部)	・健康観察の徹底	・朝のSTや各授業開始時の健康観察を全職員で行う。 ・生徒の心身の問題点を早期に発見し対応する。その記録を残し、継続的な支援に繋げる。	・「毎月の健康観察のポイント」に沿って健康観察の徹底と連絡をお願いした。健康観察の記録も残した。 ・毎回の担任会での「生徒情報」を、保健室に知らせてもらった。 ・保健室での面談後、数名をSCに繋げた。 ・保健室、相談室、担任などと情報交換を適宜行い、対応・指導に当たった。
	・教育相談体制の充実	・教育相談についての教職員の知識や理解を深める。	・10月にSSW講習会を行った。事例研究も行うことができ、専門家から助言をいただく良い機会となった。来年度は、クレバリン検査の解説会をクラス運営に生かせるように1学期中に計画したい。
	・ごみ分別の徹底とごみの減量化	・ごみ分別とごみ減量について呼びかける。	・ゴミ出し日に集積場で声かけをして減量を呼びかけたが、年度後半になるにつれ、ゴミは増加した。ゴミの減量化を意識づけたい。
図書 (図書部)	・学習情報センターとしての機能の充実	・図書資料の目録を整備する。	・生徒のよく利用する小型本を中心に397冊収集した。
	・読書センターとしての機能の充実	・生徒の図書貸出利用増を図る。 ・読書会の充実を図る。	・貸出数は730冊、授業利用数は245回、自習で利用する生徒は例年より少なかった。 ・本を借りに訪れる生徒は特定の生徒になっている。図書委員による掲示物の作成や生徒の希望する本を収集するなど工夫していく。 ・読書会に向けて5回の実行委員会を開き、指導した。次年度は図書委員を中心とし、読書の機会としてビブリオバトルを企画運営していく。
	国際理解 (国際理解部)	・国際交流事業の推進と発展を図り、生徒の国際意識を高める	・メントーングールズセカンダリーカレッジとの交流の継続 ・イングリッシュサマーキャンプの実施 ・中村地球市民教室の実施 ・生徒国際交流委員会の活性化 ・留学生の受け入れ ・バンコクとのオンライン交流 ・JICA訪問の実施(国際理解コース) ・ベトナム研修旅行の実施(国際理解コース) ・エンパワーメントプログラム(国際理解コース)の実施
第1学年	・基本的な生活習慣の確立	・遅刻、早退、欠席、提出物の期限など、時間を守るための働きかけとして、声かけや関係分掌との連携を行う。	・派遣、受入れ実施せず。 ・1年生総合で学校を紹介するビデオレター活動を行い、コロナ禍における学校間交流の1つの形を試すことができた。
		・規則を理解・順守させる。身だしなみに対する言葉かけを普段から行う。	・実施せず。 ・次年度からは実施せず。1年生全員を対象とした校内研修を提案した。次年度に向けて準備を進める。
		・挨拶やマナーを身につけさせる働きかけを行う。	・全生徒の異文化理解、国際的視野育成の場として、今後も継続する。 ・中村地球市民教室の準備LTにおいて、生徒が主体となって計画、運営できるよう指導した。 ・受入れ時期が延期となり期間が予定より短くなった。 ・在籍クラス以外に他クラスや他学年で母国を紹介する機会を設けることができた。 ・コロナウイルスの影響を受けたが、バンコクの担当者との連絡を取り、実施した。 ・開発教育について考えさせる機会となり、たいへん実りのある研修となった。
・学習習慣の確立	・授業を大切にしている雰囲気を作らせる。家庭学習に対する助言を行う。	・春休みに実施する予定。 ・感染予防を十分に行って実施する。	
		・遅刻、早退、欠席、提出物の期限など、時間を守るための働きかけとして、声かけや関係分掌との連携を行う。	・指導部と連携し早出指導などを実施してきた。コロナの影響も少なからずあるかとは思いますが、特に遅刻が多く課題が残った。担任、指導部、学年主任と指導する場を増やし、生活習慣の確立を図らせる。
		・規則を理解・順守させる。身だしなみに対する言葉かけを普段から行う。	・校則や社会的ルールは、指導を繰り返すことで理解できるようになってきた。身だしなみに関してはまだ不十分な生徒が見受けられるため、指導を継続していく。
		・挨拶やマナーを身につけさせる働きかけを行う。	・挨拶を能動的に行う生徒が多い。また、集会や職員室への入室を通し、TPOを意識した行動を身につけられるようになってきた。
	・学習習慣の確立	・授業を大切にしている雰囲気を作らせる。家庭学習に対する助言を行う。	・メリハリや規範意識を意識させることで、授業を大切にしている態度を育むことができた。学習の仕方に対する助言に素直に従い、前向きに取り組む生徒も多くみられた。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
第2学年	・進路目標の明確化と学力向上	・進路目標を明確にし、実現に向けて学習への取組を充実させる。 ・考査結果や模試結果を活用し、実力を客観的に把握させる。目標達成に向けての対策を考えさせ、実践につなげる。	・夢ナビ講義動画サービスやスタサプforSchoolの導入により進路を具体的に考えることができる生徒が多く見られた。 ・定期考査に関しては真剣に取り組む雰囲気全体にあった。一方模試に関しては準備や振り返りが不十分であったので、担任、進路指導部が協力をして意識付けを地道にする必要がある。
	・中心学年としての自覚の育成	・学校行事や部活動等に積極的に取り組み、中心となって活動できるよう、指導、助言する。 ・下級生の模範となる行動をさせる。	・昨年度の経験がない中でも粘り強く最後までやり抜こうとする姿が垣間見られた。徐々に中心学年としての自覚が芽生えてきている。 ・時間に関しては意識高く行動できたが、身だしなみに関しては中だるみが見られた。規範意識を養う必要がある。
	・人間力の育成と主体性の実現	・学校行事を主体的に取り組ませる。 ・下級生の模範となる人間力の育成を行う。	・コロナ感染症の影響により修学旅行の中止や学校祭の縮小となったため生徒の活躍の場が少なくなりましたが、現状を冷静に受け止め、柔軟に対応できる力を養うことができた。下級生と協働する機会が減ってしまったこともあり、模範となる自覚が足りない場面もあった。
その他	・中村高校の特色づくり	・国際理解コースを充実させる。	・国際理解コース最初の卒業生を送り出した。I期生の成果を下級生に受け継ぐとともに、普通コースや学校全体に還元できる学習活動を企画していく。 ・卒業までに実用英語技能検定準2級を取得した生徒が90%に達した。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大の中で実施できない行事もあったが、ベトナム研修旅行に代わる日越祭を実施した。
	・職員の健康管理	・勤務時間を適正に管理する。 ・業務の効率化を図る。	・教職員の在校時間記録を衛生委員会に報告することにより、時間外労働の把握を行い、教職員の心身の健康に留意した。 ・定時退校日及び学校閉庁日を年間行事計画にあらかじめ設定し、運営委員会及び職員会議の実施回数を調整し、会議の精選を実施した。 ・指導要録、調査書の作成について、校務支援システムを活用し、業務の効率化を図った。 ・令和4年度の年間行事計画作成に際し、各分掌で行事の精選を検討した。
総合評価		・学習指導では、ICT機器を活用した授業改善が校内に広がりつつある。 ・生徒指導では段階的指導が定着したが、遅刻数の増加や通学マナーについてより効果的な指導方法を検討する必要がある。 ・進路指導では、外部模擬試験を校内で実施し、生徒の進路実現に向けて支援した。	